

川學叢書

第三十編

團二社支店印行

K110.7  
50  
13

日本教育會社			
室		第	
一	二		一
四	三	六	十
冊	六	架	圖
	號		

明治十九年四月七日 内務省轉付

緒言



臨本ヲ撰テ教授上最モ緊要ナルトナ  
 不考之ヲ誤リテ夜ラニ冗長繁雜ヲモ  
 以テ兒童ヲ苦マシメ其突達ノ性ヲ妨ケ終  
 ニ之ヲ厭忌スルハ其弊也故ニ此編ハ專  
 才畫學ノ教授法ニ基キ總テ算野ナルヲ避ケ愛  
 知キテ採解難キヲ去リ目ニ慣レタルヲ  
 集メ平易簡單ナルヲ主トシテ一ニ兒童ノ力ニ  
 適センコトヲ務メタリ故ニ夫ノ杜撰ニ集寫シテ  
 教授法ノ順序ヲ紊リ若クハ洋版ヲ翻刻シ  
 テ其精神ヲ失フノ類トハ識者自ラ其異ナ  
 ル所アルコトヲ知ル可シ

編ヨリ第七編ニ至ルマテ木版ヲ用ヒ  
 第八編ヨリ以下石版ヲ用ルハ初學ノモノ  
 又門ノ際ハ筆ヲ使フコト堅固ニシテ明白ナ

ラシムルコトヲ習熟セシメ稍々運筆ノ自在ヲ得ルニ及シテ線條ヲシテ韻致ヲ生セシメント欲スレハナリ

一此編名称ヲ掲クルモノハ傍ラ洋語ヲ挾ミテ臨画ノ際傍ラ單語ヲ習熟センメント欲ス是又編者ノ微意ノミ

一此編頗ル外良ヲ装フコトヲナサス専ラ簡畧ヲ主トセルハ山村僻邑ニ至ルマテ画學ノ切ヲシテ洽子カラシメント欲スレハナリ

明治十九年二月 編者識

### 臨畫心得

一画ヲ臨スルニハ須ラク原本ニ模倣シテ分毫モ違フコトアル可ラス

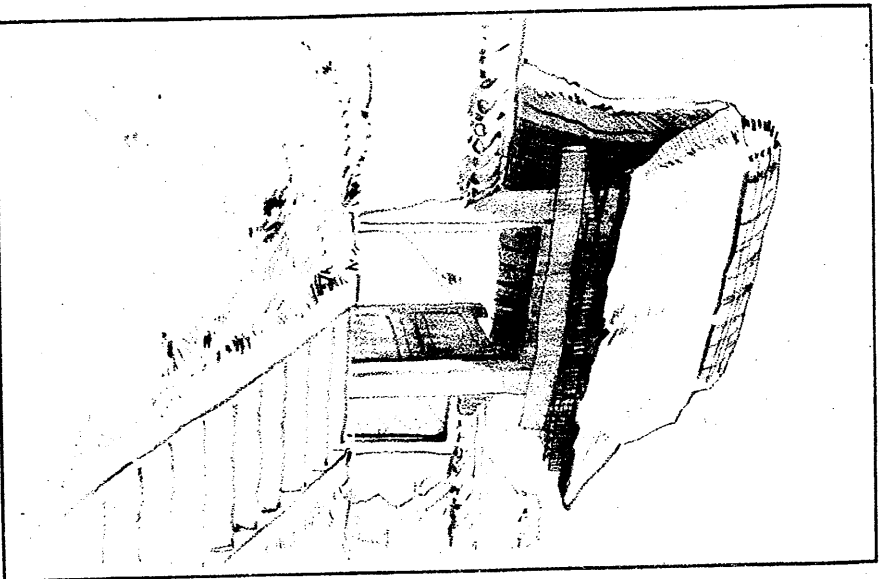
一画紙ハ臨本ト同状ノモノヲ用フヘシ若シ紙幅ヲシテ放  
大ナシムル所ハ畧其比例ヲ同ウスヘシ但シ其大サヲ  
臨本ヨリ縮小セサルコトヲ要ス

一總テ画ヲ臨スルニハ先ツ虚線ヲ以テ其位置形状ヲ  
定メ次ニ大体ヲ組立ル所ノ諸線ヲ画キ而テ細小  
ノ部ニ及ホス可シ然ル後彈性脂ヲ以テ一同ニ揩拭シ僅  
ニ筆痕ヲ餘スヲ以テ度トナシ然ル後實線ヲ施スヘシ

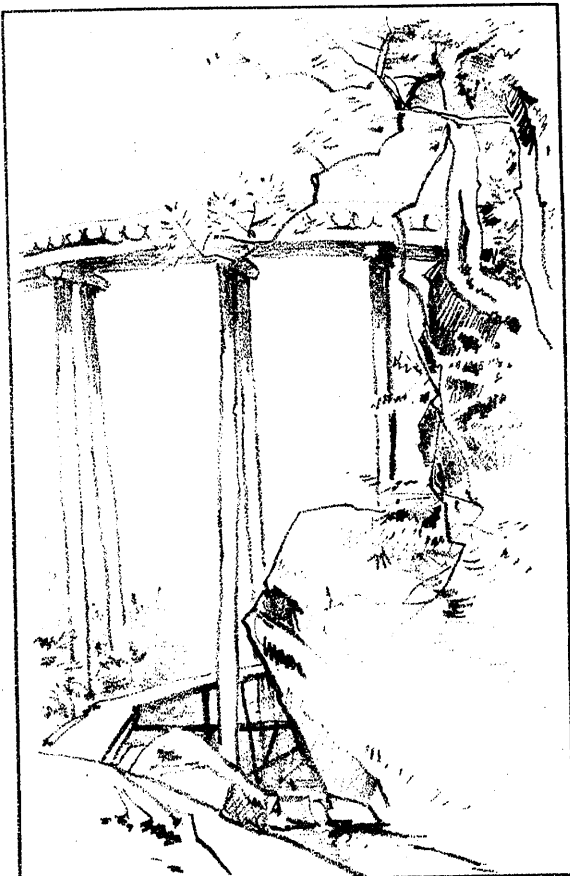
一虚線ヲ画クニハ其實稍々堅硬ナル鉛筆ヲ尖銳ニシ  
筆ヲ使フコト輕カラシメテ乾麵或ハ彈性脂ヲ以テ揩  
拭シ易カラシム可シ

一筆ヲ下タスハ左ノ方ヨリ始メ漸次ニ右ノ下方ニ画キ終  
ルヘシ然ラザレハ運筆ノ際紙面ヲ穢スニ至ル可シ

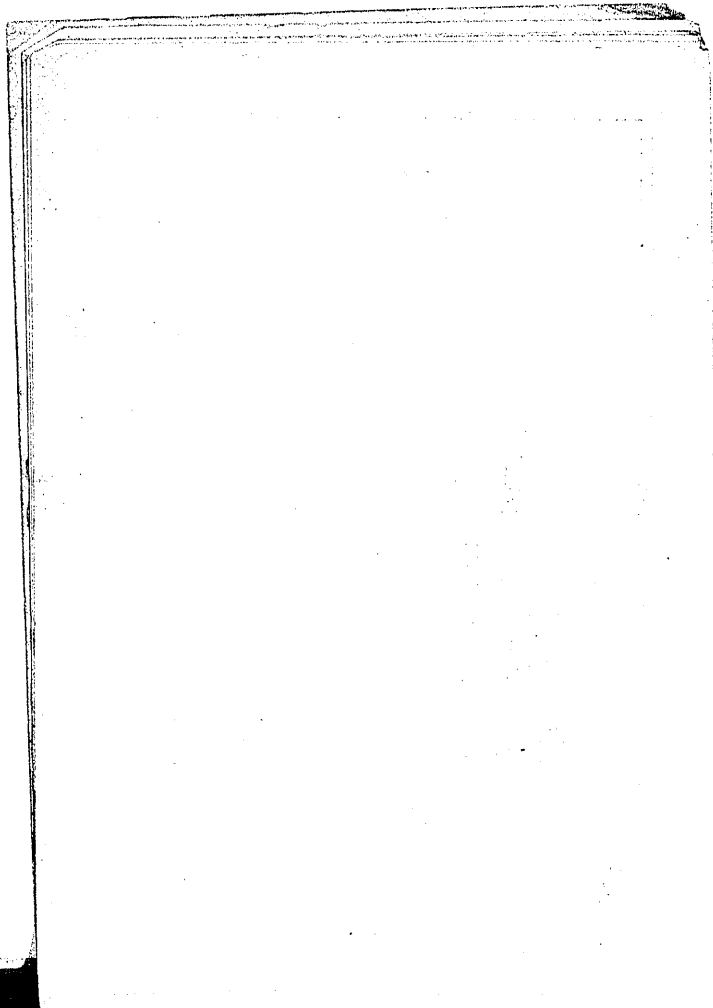
一筆ヲ執ル宜シク直立ナラシム可シ若シ之ヲ傾ケテ  
其側辺ニ於テ画クイヲナセハ線條薄弱ニテ生氣ヲ  
失フ可シ



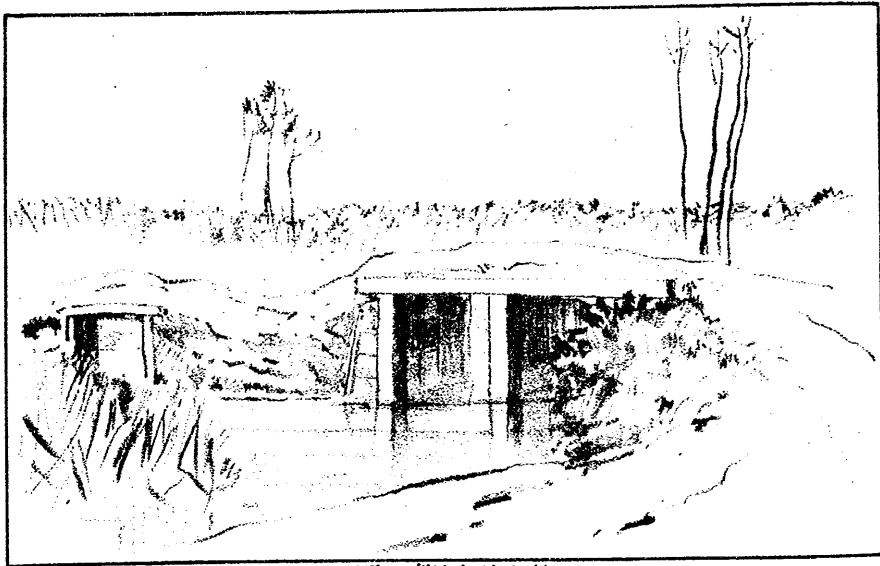
圖・第編三十第



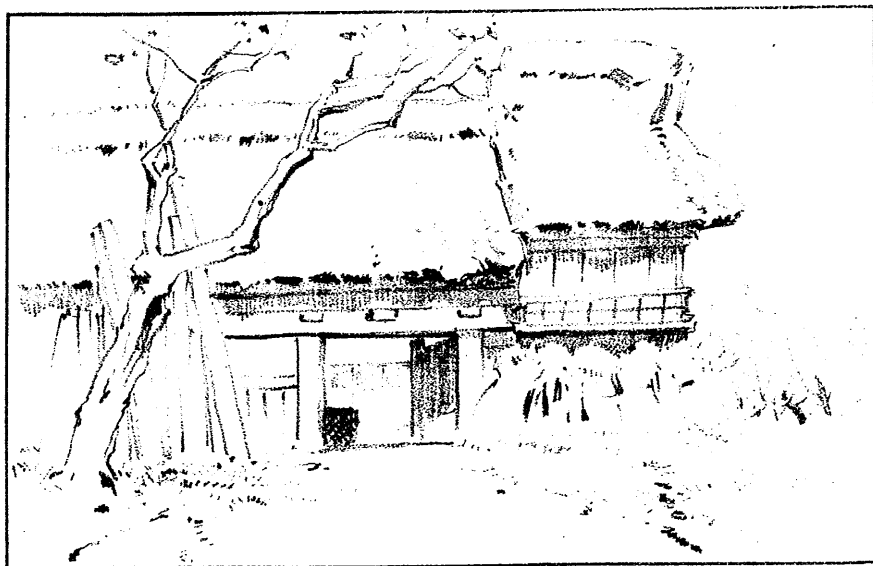
圖二第編三十第



圖三第編三十第



圖四第編三十第

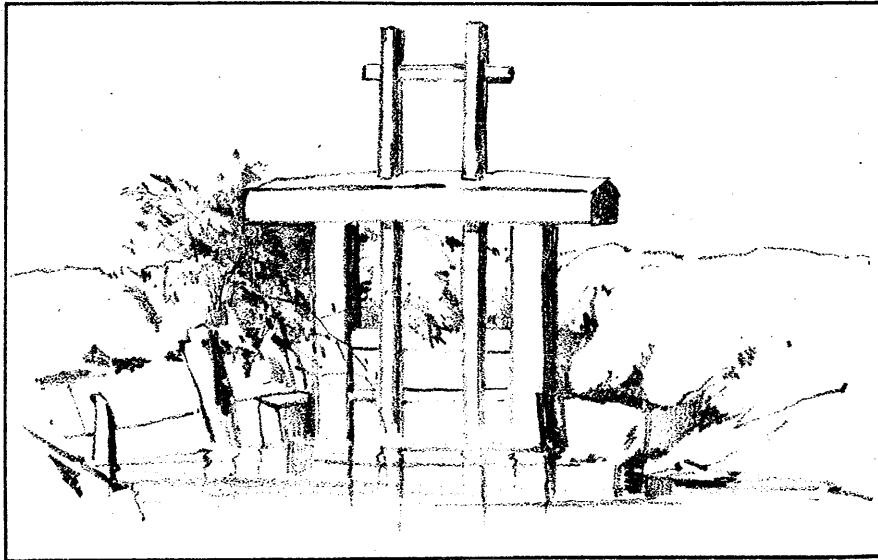


圖五第編三十第

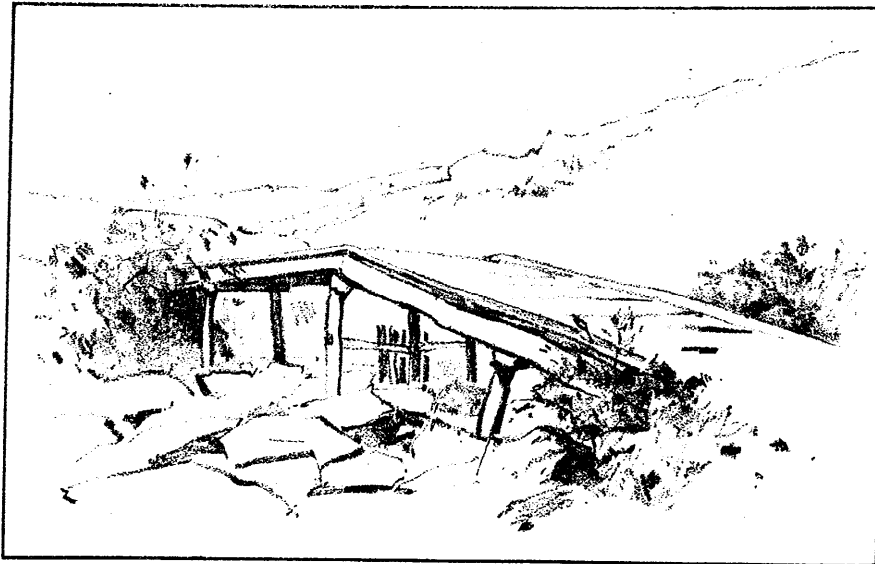




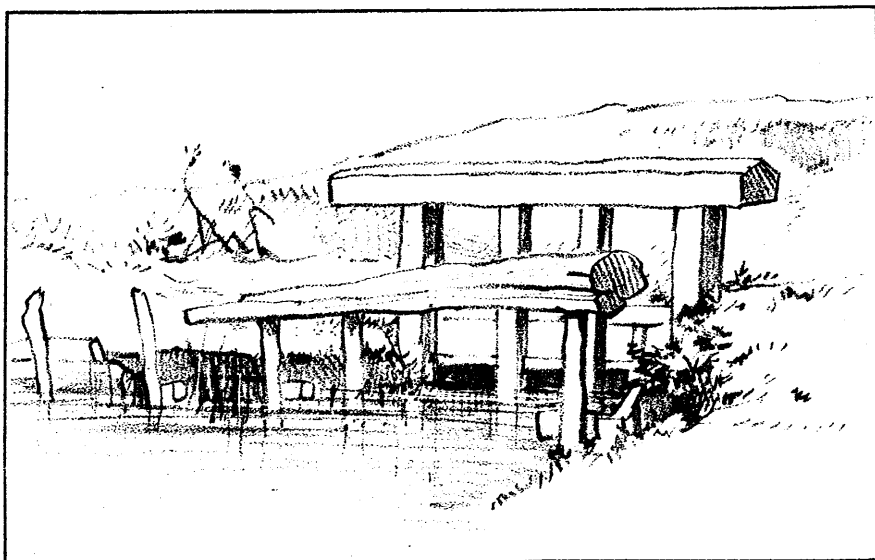
圖六第編三十第



圖七第編三十第



圖八第編三十第



圖九第編三十第



圖十第編三十第

全篇目次

- 第一編 直線曲線及單形
- 第二編 紋画
- 第三編 花葉前画 器具前画
- 第四編 器具前画 畧画
- 第五編 家屋橋梁等前画 畧画
- 第六編 器具輪廓 畧画
- 第七編 全前
- 第八編 家屋橋梁等輪廓略画
- 第九編 器具施影 畧画
- 第十編 花卉施影 畧画
- 第十一編 器物施影畧画
- 第十二編 樹画略画
- 第十三編 景色畧画
- 第十四編 全前
- 第十五編 禽獸虫魚 畧画
- 第十六編 人物畧画

明治十九年一月廿三日 版權免許  
今 年四月 出版

定價金四錢

著者

東京府士族 本 及 錦 吉 郎

出版人

全

榎本 徹之助

神田區雉子町卅二番地

芝區新小川町二丁目七番地

